

新宿区長 へ


法人名 特定非営利活動法人 CAPユニット  
 所在地 東京都新宿区舟町12-24 グレイス四谷307  
 (フリガナ) ダイヒョウリジ カワノ ヨウコ  
 代表者氏名 代表理事 河野 葉子 ㊞

## 事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 助成対象事業

事業名	子どもが安心して暮らせるまち 新宿へ・CAP広報啓発事業
実施日時又は期間	平成25年6月～9月：実施計画策定 平成25年10月～平成26年3月（月に1回程度：5回） ：地域センター等5か所でCAP大人向けワークショップを開催 平成26年3月：事業のまとめと報告書作成
対象者の範囲及び人数	子育てをしている保護者。小・中学校・保育園・子ども園・幼稚園・学童クラブ・児童館等の教職員。教育委員会・民生委員・子ども家庭支援センター・児童相談所・保健センターなど子どもに関わる専門機関に勤める人。地域センターや新宿NPOネットワーク協働推進センター・児童館等を利用する人。“育じい”と呼ばれる「孫育て」に積極的に参加するシニア世代の人等。
事業内容	 <p><b>【目的】</b>          子どもの人権、子どもへの暴力防止について地域の大人たちが共に考え連携して子どもを支援していくことにより、子どもが安心して生きていける新宿区になることを目指す。</p> <p><b>【手法】</b>          大人を対象に、参加体験型でCAP大人向けワークショップを開催          1ワークショップ：2時間、地域センター等5か所にて</p> <p><b>【プログラムの内容】</b>          ・CAP(キャップ)とはChild  <b>C h i l d A s s a u l t P r e v e n t i o n</b></p>

	<p>チャイルド・アソルト・プリヴェンション：子どもへの暴力防止。人権概念を通し、子どもたちが「いじめ・誘拐・性暴力」など様々な種類の暴力から自分を守る方法を学ぶ、参加体験型プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップの種類と内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>大人ワークショップ（保護者・地域の人向け、教職員向け）</li> <li>子どもワークショップ（就学前・小学生・中学生）</li> <li>その他（児童養護施設・障害のある子ども向け）など</li> </ul> </li> <li>・模擬ワークショップ：子どもワークショップの一部を、体験してもらおう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>権利とは</li> <li>子どものもつ特別に大切な3つの権利：安心・自信・自由</li> <li>NO・GO・TELL</li> <li>安全な距離、簡単な護身術、特別な叫び声・・・等</li> </ul> </li> <li>・CAPプログラムの基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>暴力の無い社会をつくるために、人権意識（安心・自信・自由）・エンパワメント・地域（コミュニティ）が大事である。</li> </ul> </li> <li>・暴力とは <ul style="list-style-type: none"> <li>人の心と体を傷つけること。</li> <li>人権侵害行為（人の安心・自信・自由を奪う）。</li> </ul> </li> <li>・子どもの心理 <ul style="list-style-type: none"> <li>暴力を受けた子どもは、そのことを誰にも言えないことが多い。</li> <li>不安・無力・選択肢が無い、と考えている。</li> <li>助けを持ち望む、か弱いイメージに当てはまるとは限らない。</li> </ul> </li> <li>・大人としてできること <ul style="list-style-type: none"> <li>暴力を受けた子どもの心の回復にとって大切なのは、なるべく早いうちに、気持ちを聴いて受け止めてくれる大人の存在。</li> <li>基本的な姿勢：落ち着いて傾聴・気持ちを認め・選択肢を考える。</li> <li>伝えたい言葉：よく話してくれたね・あなたの話を信じるよ・等</li> </ul> </li> <li>・通告や相談機関等について <ul style="list-style-type: none"> <li>児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかにこれを通告しなければならない。</li> <li>（児童虐待の防止等に関する法律 第六条より）</li> <li>0570-064-000 児童相談所全国共通ダイヤル</li> </ul> </li> </ul>
<p>具体的な活動状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2013年10月30日（水）10：00～12：00 柏木地域センター</li> <li>・2013年11月24日（日）14：00～16：00 牛込笹笥地域センター</li> <li>・2013年12月6日（金）19：00～21：00 四谷地域センター</li> <li>・2014年1月25日（土）14：00～16：00 戸塚地域センター</li> <li>・2014年2月18日（火）14：00～16：00 NPO協働推進センター</li> </ul>

事業の成果	<p>総参加者：26名（男性：3名、女性：24名） うち新宿区在住・在勤：14名</p> <p>人数こそ、計画よりも少なかったですが、色々な立場の方に聴いて頂くことが出来ました。</p> <p>自分の子どもの学校にワークショップの開催をお願いしたいと言って下さった方、延期になっても時間を都合して参加して下さいました方、直前に子どもが熱を出してキャンセルしたけれど今日なら行けると次の日に飛び入り参加して下さいました方、夜の回に保育園から小さなお子さんの手を引いて駆けつけて下さった方、経験豊かな方々に囲まれながらそれでも子どもの為になにが出来ると真剣に考えて下さった若い方…等、参加された方々は新宿区の子どもたちが地域で安心安全に生活するために大人のできることを考えてもらいました。</p> <p>またワークショップ 2 時間の中で、模擬という形で子どもワークショップに子どもになったつもりで参加して頂くところがあり「自分は嫌なことがあったら“イヤだ！”と声を挙げてきたが、そう出来ない子どももいる事が実感できた。」という方がいました。お隣に座っていたお友だちは、そういう人にこそ知って欲しい話だと思いその方を誘ったのだと教えて下さいました。</p> <p>こうした身近な人からの誘いなどによって、少しずつではありますがCAP という活動が広がっていくという良い事例ではないかと考えます。</p> <p>また、CAP は暴力防止の予防活動なので、はっきりとした成果は見え難い物ではありますが、少なくとも新宿区内でニュースに載る様な虐待、いじめなどは起こっていないことから、子どもへの暴力防止に対しての成果が少しはあったのではないかと考えます。</p>
-------	--

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			314,483 円
	参加費・資料代等	参加・資料代 : 一人 500 円 × 26 人		13,000 円
	その他の収入			0 円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		500,000 円
	計			827,483 円
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	20,180 円	ワークショップ：施設使用料（柏木・牛込笹筈・四谷・戸塚地域センター、新宿NPO協働推進センター）集会室：午後区分使用： <u>(1,000 円+800 円+800 円+600 円) ×2 区分+500=6,900 円</u> 。保育室：和室等 <u>(600+400+400+600) ×2 区分+250=4,250 円</u>	
			ミーティング：施設使用料 四谷地域センター集会室 2：午前・午後 1 使用、戸塚地域センター会議室 4：午前・午後 1 使用、大久保地域センター会議室 B：午前・午後 1 使用、NPO 協働推進センター401A・B：午前・午後使用、戸塚地域センター会議室 4：午前・午後 1 使用、NPO 協働推進センター401A：午前・午後使用、ウイズ新宿会議室：午前・午後 1 使用、戸塚地域センター会議室 2：午前・午後 1 使用、ウイズ新宿会議室：午前・午後 1 使用・・・ <u>(600 円+200 円+400 円+250 円) ×2+200+250+500+300+500) ×2 区分=6900 円</u> ミーティング・打ち合わせ資料 コピー代： <u>10 円×213 枚=2,130 円</u>	
宣伝費	189,630 円	<u>チラシ印刷：24,500 円</u> 10,500 円+14,000 円 (11,000 枚 税込・送料無料) <u>リーフレット印刷：14,910 円</u> 14,700 円 (@28 円×500 枚+税) +210 円 (振込手数料) <u>クリアファイル作成：36,645 円</u> 35,500 円 (71 円×500 枚、税込)+725 円 (送料) +420 円 (振込手数料) <u>CAP 読本：10,930 円</u> 10,000 円 (@50 円×200 冊、税込) +850 円 (送料) +80 円 (振込手数料) <u>シール：9,135 円</u> 8,500 円 (@17 円×500 枚、税込) +530 円 (送料) +105 円 (振込手数料) <u>缶バッジ：46,920 円</u> 46,000 円 (@230 円×200 個、税込) +500 円 (送料) +420 円 (振込手数料) <u>コットンバッグ：39,270 円</u> 38,850 円 (@185 円×200 枚+税) +420 円 (振込手数料) <u>名刺印刷：7,320 円</u> 7,000 円 (1000 円×7 組、税込) +110 円 (送料) +210 円 (振込手数料)		

	リース費	0円	
	消耗品費	90,674円	事務用品（ホワイトボード用マーカー・ボールペン・マグネット・糊・テープ・封筒印刷・コピー用紙・模造紙・コピーインク代・ホチキス・クリアファイル・ラベルシール・ラミネーター・ラミネートフィルム・USBメモリー・SDカード等など）
	謝礼	37,717円	保育： <b>37,717円</b> 20,060円（保育士2名、3時間）＋8,467円（保育士1名、2.5時間）＋8,875円（保育士1名、2時間）＋315円（振込手数料）
	人件費	140,000円	ワークショップ実施： <b>68,000円</b> 1・2回目（@4,000円×3人＋@2,000×2人）×2回＝32,000円 3・4回目（@4,000×3人＋@2,000×1人）×2回＝28,000円 5回目（@4,000×2人）＝8,000円 ミーティング・理事ミーティング： @2,000円×のべ82人中36人分＝ <b>72,000円</b>
	材料費	1,316円	運搬用バッグ修繕材料費（キルト布924円、布テープ294円、マジックテープ98円）
	交通費	185,730円	ミーティング：7,680＋9,010＋3,840＋5,880＋13,880＋6,460＋7,680＋9,060＋5,340＋9,920＝ <b>78,750円</b> ワークショップ：4,800＋4,240＋3,700＋4,000＋1,900＝ <b>18,640円</b> 理事ミーティング：6,440×10回＝ <b>64,400円</b> その他：会場予約、広報活動、チラシ作業、ボランティア説明会、保険申し込み、前日準備： <b>23,940円</b>
	その他諸経費	36,600円	行事保険料：30円×60人＝ <b>1,800円</b> （ワークショップ5回：15＋15＋10＋10＋10人＝60人、スタッフ・参加者とも） チラシ、案内状等郵送費 <b>34,800円</b>
	助成対象事業費（小計）	701,847円	
	余 剰 金	32,102円	
	助成対象外事業費	93,534円	ミーティング・理事ミーティング 人件費：2000円×46人＝92,000円 ボランティア説明会 お茶菓子：1,534円
	事 業 総 額		827,483円

### 3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
<p>事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。</p>	<p>参加者人数については、計画時は各回 15 名程度と考えていたが、思ったよりも集まらず 35%程度にとどまってしまいました。</p> <p>しかし、チラシを区内全ての区立小に配布しました。チラシを小学生のいる各家庭に学校を通じて渡すことが出来たおかげで、CAP というもの、子どもへの暴力防止という言葉等を、少なくとも目にする機会が出来たことで、「子どもが安心して暮らせるまち・新宿へ」という CAP の広報活動という目標についてはある程度達成できたものと考えます。</p>
<p>地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。</p>	<p>新宿区の保護者から、直ぐに自分の子どもの学校に呼びかけてワークショップを開催できる様働き掛けたい、という声が何回も聞こえて来ました。</p> <p>また、参加者には母親、祖母、大学生、支援学校の先生、保育専門の会社の所長、スタッフ・・・など様々な立場での参加があり、世代を超えて、新たな繋がりをもつことも出来ました。</p> <p>また、参加者の子どもを預かる保育サービスについて、新宿区内の保育専門の会社に依頼することになりましたが、そこの担当者や所長にもワークショップに参加してもらった事が出来ました。CAP を理解してもらい、他の団体等にも宣伝したいという話も頂いています。</p>
<p>費用対効果は適正であったか。</p>	<p>予想以上に参加者が少なかったことで結果的には適正でなかったと反省せざるをえませんが、チラシを小学生のいる区内の各家庭に配り、会場近隣の保育園幼稚園、保育の専門学校等、また新宿区内の他の NPO 団体などにも案内を送り、新宿区全体に CAP という活動があることを知ってもらう事が出来たと考えると、費用対効果は適正であったものと思います。</p> <p>もちろん、新宿区以外の各地の団体・学校などにも案内を送ったことで、新宿区で行われている NPO 活動に対しての助成制度を知らせることにもなったのではと思います。</p> <p>更に、今回の事業については、CAP ユニットのホームページはもちろん、新宿区のキラミラネット、しんじゅくノート、CAP センター・ジャパンや東京ボランティアセンターのホームページにもワークショップの案内を掲載してもらう事が出来、facebook も立ち上げて早い情報を伝えていけるような体制づくりもすることが出来た事は大変効果のあったものと思います。</p>

<p>新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。</p>	<p>参加して欲しい相手・ターゲットを、子どもに関わるあらゆる人とした為に、会場と開催日時の設定をバラバラにしました。年代や立場などの違う人たちにも参加して欲しいと考えたからです。</p> <p>しかし、結果としては参加者の多くが子どもを持つ保護者：母親であり、母親の参加し易い午前中や土日の午後などは参加者も多く、反対に平日の午後、週末の夜などは参加しにくい時間帯であったと言わざるを得ません。</p> <p>父親や育じいと呼ばれる様な方に参加してもらるようにする為には、学校等でなく、職場・企業や町内会や所属団体等に対しての積極的なアプローチが必要だったかもしれません。その辺りの経験不足を今後は埋めていかなくてはならないと痛感いたしました。</p> <p>また、母親には保育の準備があれば参加し易いだろうと考えましたが、子どもを預けて自分だけ学ぶとは思えなかったのかもしれません。</p> <p>CAPのプログラムの作り方として子どもと一緒に参加する事を前提にしていない為に、子どもと同席は出来ないのですが、今回の様な公開ワークショップでは少し内容の組み立て方を工夫して、部分的でも親子で参加出来る時間を設けるなどすれば、もっと参加し易かったのかとも思いました。</p> <p>そういったプログラムの作り方を学んで行きたいと思います。</p> <p>加えて、参加申し込みのあった方でも当日のキャンセルが数件ありました。</p> <p>お子さんの体調不良によるものでしたが、この点も母親が参加しようとする時にはネックになっているものだと気付きました。</p> <p>従って、前日に参加申し込みの方が相次ぎました。活動スタッフの負担が大きくなりますが、週に2回の事務所開設日のみでなく、参加の受付をする日程にも工夫が必要と思いました。</p>
<p>理解者や支援者が広がったか。</p>	<p>参加者のすべての方から、高評価を頂きました。</p> <p>子どもの学校にワークショップ開催を呼び掛けたい。CAPスペシャリスト養成講座を受講して自分も「子どもが暴力から自分を守る方法」を伝えていきたい。等というアンケートを頂きました。</p> <p>また、チラシなどを見てCAPの活動を支援しようと賛助会員になって下さった方が増えました。</p>

<p>事務局の執行体制は十分だったか。</p>	<p>製作する物品の手配や参加者の受付、把握等や台風等の際の不測の事態の対応、また保育の申し込みに対しての業者への手配等、必要と思われることに対して十分に出来たものと思います。</p> <p>行事保険の手配に関しては、早い段階では実際の参加人数を把握しきれず、毎回申し込み期限ギリギリの申し込みとなってしまいましたが、全回とも問題なく対応することが出来ました。</p>
<p>今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。</p>	<p>参加者への配布資料に会費払い込み用紙を同封し、毎回のワークショップ開催の挨拶の際に会員になって頂けるよう働きかけました。</p> <p>また、今回の助成金事業の前後に渡り CAP ユニットの現会員（正会員・賛助会員）に対しても、新宿区での当助成金事業の内容を広告し、より一層の支援をお願いしました。</p> <p>私たちの活動は、今回の様な公開でのワークショップよりも学校や幼稚園、保育園などという場での開催が主体となっています。それは子どもワークショップを含め、その方が子どもへの暴力防止に対しより効果があるとされてもいる為でもあるからです。是非、お子さんの学校や幼稚園・保育園などに開催を呼び掛けて頂きたいと、参加者の皆さんにお願いしました。</p>
<p>その他</p>	<p>新宿区の事業という事で、区の広報や掲示板への貼付、NPO の冊子などにも取り上げて頂き、小学校へのチラシの配布までして頂きました。</p> <p>今回ご参加頂けなかった方達にも、何回も CAP: 子どもへの暴力防止、という言葉が伝わったことと思います。</p> <p>繰り返しとなりますが、CAP は子どもへの暴力防止が目的です。</p> <p>防止に対しての効果は見えにくく、評価には繋がり難いものですが、そうした言葉を見聞きすることだけでも、子どもへの暴力防止の一助にはなっているのではないかと考えております。</p>



## 4 活動の成果

- \* 事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
- \* 参加者の意見なども報告してください。

### 第1回目

・2013年10月30日（水）10：00～12：00 柏木地域センター

参加者：4名。

保育、手話通訳の申し込みは無し。

予定では10月16日に開催予定でしたが、大型台風の首都直撃との天気予報だった為、急遽2週間後の同時刻同会場での開催となりました。

当初の参加予定人数は12名。

前日に電話で変更のお知らせをしましたが、都合のつかなかった方が多く残念でした。

終了間際に、子どもにこんなことが有って困っているという話が出て来て、皆で考える事が出来ました。

会場の時間設定の都合で、終了後にゆっくりと相談などに乗ることは出来ませんでした。



## 第2回目

- ・2013年11月24日（日）14：00～16：00 牛込笹笥地域センター

参加者：11名

保育申込：3名。手話通訳申し込み：無し。

日曜日の午後という事もあり、23区外からの参加者や男性の参加者もいらっしゃいました。とても和やかな中、真剣に参加されていました。この回は、時間設定を少し工夫して質問の時間を多めにとった為、終了後もそこここで質問や相談などで残られる方が多くいらっしゃいました。



## 第3回目

- ・2013年12月6日（金）19：00～21：00 四谷地域センター

参加者：2名

保育申込：1名。手話通訳申し込み：無し。

金曜日の夜、四谷駅近くという事で、男性が参加し易いようにと設定したつもりでしたが、参加者は女性でした。

しかし、保育園から小さいお子さんの手を引いて駆けつけてきたお母さん、近隣の保育の会社の所長にも参加して頂けました。

#### 第4回目

- ・2014年1月25日（土）14：00～16：00 戸塚地域センター

参加者：6名

保育申込：1名。手話通訳申し込み：無し。

若い男性、お孫さんの為にと参加された方、小学生の保護者など、幅広い年齢層の参加となりましたが、参加者間での情報の共有もあり、横のつながりが生まれ、和やかなワークショップとなりました。

#### 第5回目

- ・2014年2月18日（火）14：00～16：00 NPO協働推進センター

参加者：3名。

保育、手話通訳申し込み：無し。

会場に馴染みが無く、参加者に分かりにくかった様です。

また、この回はスタッフ側も次々とインフルエンザ禍に巻き込まれてしまい、最終的には当日の事務担当者が、事務所を閉めてワークショップに出向かわなくてはならない事態となっていました。

#### アンケートより

- ・自分のしてきた何気ない事も子どもに対する暴力かもと反省しました。もっと子どもの話をちゃんと聴いてあげたいと思いました。
- ・子どもに今日の内容を教えたい。是非、自分の子どもの学校にCAPのワークショップ開催を呼びかけたいです。
- ・子ども関係の仕事をしているが、CAPの話聞いたのは初めてで、とても素晴らしい内容でした。勤務先での開催も出来ると思うので今後働きかけてみたいと思います。
- ・暴力というととても特殊なことと思っていたが、極身近にある事と分かった。自分の子どもがいじめなどの暴力に会ったらどうしようと思っていたが、子どもの気持ちを聴いてあげることで子ども自身がそれを乗り越える力を身に付けることになると分かって、少し安心した。
- ・学校ではもちろんだが、養護施設などでもワークショップが広まると良いですね。

約2時間のワークショップの中で、模擬という形で子どもワークショップに子どもになったつもりで参加して頂くところがあります。自分は嫌なことがあったら「イヤだ！」と声を挙げてきたが、そう出来ない子どももいる事が実感できたという方がいました。お隣に座っていたお友だちは、そういう人にこそ知って欲しい話だと思いその方を誘ったのだと教えて下さいました。

子どもの学校にワークショップの開催を呼びかけると言って下さった方、延期になっても時間を都合して参加して下さいました方、直前に子どもが熱を出してキャンセルしたけれど今日なら行けると次の回に飛び入り参加して下さいました方、夜の回に保育園から小さなお子さんの手を引いて駆けつけて下さった方、経験豊かな方々に囲まれながらそれでも子どもの為になにができるかを真剣に考えて下さった若い方…。皆さんに出会えて良かったです。